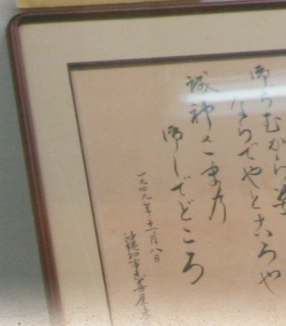


ADVISORY ASSEMBLY HALL
OF
OKINAWA
沖縄諮詢會堂



沖縄諮詢會組織圖

委員長	文教部
幹事	農政部
財政部	衛生部
法務部	労働部
教育部	警察部
文化部	工務部
公衆衛生部	
社会事業部	
労働部	
農政部	
衛生部	
警察部	
工務部	



イクサ
「戦」は終わった。

そして、新しい時代の沖縄が石川からはじまった。「石川収容所」の設置をはじめ、戦後初の学校「石川学園」の開校、沖縄県庁の前身「沖縄諮詢会」、東恩納博物館の開館。

人々はいつも前を向いて力強く進んでいった。

Uruma City Museum



利用案内

開館時間／午前9時～午後5時(最終入館午後4時30分)
 入場料／無料
 休館日／月曜日、公休日の翌日
 (月曜日と公休日が重なるとその翌日)
 12月29日～1月3日



うるま市立石川歴史民俗資料館
 〒904-1107
 沖縄県うるま市石川曙2丁目1番55号
 電話/FAX 098-965-3866

うるま市立
石川歴史民俗資料館

政治

8月

政治機構の設立



沖縄諮詢會

ふーてん
 厳しい現実におかれても舞天さんとともに「ヌチヌグスージサピラ(命のお祝いをしましょう)」とみな、笑顔を忘れずにいた。

戦前の暮らしから現代まで、ずっと残しておきたい沖縄の歴史をあなたに伝えよう。

そんな資料館でありたい・・・。

戦前・戦後の生活を今に伝える 歴史文化ミュージアム。 石川歴史民俗資料館



戦前の暮らし

戦前の沖縄で実際に使われていた農具や漁具、生活用具には、先人たちの様々な知恵が活かされている。機能優先でありながらも、これらには美しささえ感じられる。



戦後の芸能

戦後、モノがない時代の沖縄。そんな中でも人々は、空き缶でカンカラ三線を作り、歌を歌い、傷ついた心を癒やした。沖縄諮詢会では、芸能人を集め松竹梅の3劇団を作り、各地を慰問させた。

歯科医師でありながら、沖縄諮詢会文化部の初代芸術課長を勤めた舞天さん（小那覇全孝）は、「沖縄のチャップリン」と呼ばれ、人々に笑いを届けた。



心

衣

更正衣料

米軍服を縫い直したり、着物を動きやすいように作り替えたりしている。パラシュートなどを利用して作られた服もある。



更正日用品

屋嘉収容所にて劇団活動をしていた元日本兵が使用していたリュックサック。米軍の野戦用テントの布と軍靴の紐を使って作られている。



食

サーター車

1600年代に儀間真常が黒糖を作る技術を中国から伝えた。その後、木の園車から石の園車へと改良を重ね、1882（明治15）年に鉄の園車が誕生した。牛や馬に引かせてゆっくりと園車を回転させ、さとうきびをしぼり、その汁を鍋で煮て黒糖にした。



製糖用窯跡

楚南村跡の発掘調査により発見された。全長が約13m、幅が約80cmで煙道部、燃焼部、空気口、灰原などが良好な状態で残っていた。



生活道具

日常生活に欠かせない道具類。戦後、放置された飛行機の残骸（ジュラルミン）を利用し、生活道具を次々と作り出した。



住

規格住宅

戦災で家を失った人々のために約7万5千戸の仮設住宅が建てられ、「規格住宅」と呼ばれた。米国産木材を使ったツー・バイ・フォー（2×4インチ）の骨組みで、屋根はテント張りか茅葺き、壁もテントで作られており、画一的な規格のためこの名称と呼ばれた。

夏は暑く、雨漏りもひどく、快適とはいえなかったが、短い時間で建てることができ、住宅不足の解消に一定の役割を果たした。当館では、実物大で復元している。（右図は規格住宅の大きさを示す）

